

代替農薬等の効率的防除技術の開発

【研究概要】

①コマツナ萎黄病に対するコマツナ品種の感受性差異を農総研内汚染圃場で検討し、現行の栽培品種8品種のうち感受性が最も低いのは「まさみ、夏の甲子園」であることを明らかにした。

②コマツナの根こぶ病に対する葉ダイコンの作付けは、アミスルブロム粉剤を併用しなくても防除効果は高いが、効果の持続性については、併用区と比べその程度は低いことを確認した。

③トマトのコナジラミ類について、調合油乳剤およびグリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤等環境負荷の低い農薬を単剤で連続施用した場合や、物理的防除資材であるエッジ粘着板の効果を検証した。